

高齢者の眼の病気：外科治療について（2）

高齢者の網膜疾患で、外科治療が必要になる疾患は多いです。網膜そのものを交換させる治療は存在しませんが、硝子体と網膜表面の付着組織を除去する治療が可能になっています。多くの先人たちの継続的な努力により、網膜に対する手術はほぼ完成の域に達しています。網膜疾患に対する外科治療は、ほかの領域の外科治療と異なるいくつかの特徴があります。

- 1) 局所麻酔で大部分の手術が可能である。
- 2) ガス注入といって、眼球の内部が空気、膨張性のガス、またはシリコンオイルで満たされることがある。
- 3) 手術後、視力の回復に時間がかかることが多い。

1) 網膜の手術は通常、局所麻酔で行われます。白内障のように比較的短時間で終わることはまれですが、通常は1,2時間以内で終了することが大部分です。黄斑疾患といい、黄斑上膜、黄斑円孔などの疾患ですと、白内障と一緒に手術をしても3-40分で終了することも多いです。ただし、手術時間は疾患にもよります。非常に重症の網膜剥離（増殖硝子体網膜症といいます）、進行した糖尿病網膜症などの手術は3時間近くかかることもあります。また、穿孔性眼外傷といって、眼球に鉄片などの異物が突き刺さる疾患などは全身麻酔下で手術を行うことが一般的です。一般的に局所麻酔で可能なのですが、不安が強い患者さんの場合には、ご本人と主治医（執刀医）が相談をして、麻酔科専門医の管理下で手術を受けていただきます。

2) 網膜の手術で非常に特徴的な手技にガス注入というものがあります。これは眼球内部に空気や膨張性のガスを注入するという手技です。目的は網膜剥離の進行を防ぐため、網膜のあな（網膜裂孔）を閉鎖させるために行います。完全にうつぶせになる場合と、横向きになり場合とがあります。通常、24時間うつぶせというのは患者さんにたいへんな負担になるので、横向きを適宜していただくという場合が多いです。ガスは空気のほか、一般的に2種類のガスが用いられます。ガスの濃度にもよりますが、2週間から1ヶ月程度眼のなかに滞留します。

ガスが眼のなかを完全にみたと、その間はよく見えません。時間とともに眼内のガスがすこしずつ水と置き換わってゆきます。そうすると水の部分からものが見え出していきます。注意しなくてはならないのは、膨張性のガスが眼の中に入っている間は、気圧の低い場所にいてはならない、ということです。特に気をつけなくてはならないのは飛行機です。眼内の空気が膨張し、血管が閉塞し、視力を失うことになります。網膜の手術後の飛行機旅行には細心の注意を払う必要があります。